

令和7年度
徳島県の公立高等学校における
「エシカル消費」推進の取組

「とくしまエシカルアクション」プロジェクト

実践報告集

令和8年3月

徳島県教育委員会

徳島県の公立高等学校における 「エシカル消費」推進の取組について

現在、より良い社会の実現に向けて、人や社会・環境に配慮した消費行動である「倫理的消費」（エシカル消費）への関心が高まっています。

徳島県教育委員会では、「『とくしまエシカルアクション』プロジェクト～広げる、つなげる、「エシカルクラブの環」推進事業～」の取組等を通して、「エシカル消費」の普及・啓発を図るとともに、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に行動することができる消費者力の育成を目指しています。

なお本事業は、消費者庁「令和7年度消費者行政強化交付金」を活用しています。

広げる、つなげる、「エシカルクラブの環」推進事業

県内すべての公立高校に「エシカル消費」を研究・実践する組織「エシカルクラブ」を設置しています。

〈実施ステージ〉

①アドバンス校

エシカル消費について、他校種や地域と連携した活動、GIGA スクール構想等を活用した海外との交流等、新しい発想で、県内の高校を牽引する先進的な取組を進める。各種コンテストや全国大会等への積極的な応募、SNS を使用した発信など、その成果を広く普及する。

②スタンダード校

これまでの実践をベースとし、「エシカル消費」を推進する取組を継続するとともに、その成果を広く発信する。

* エシカル消費の例として、障がい者支援につながる商品等の消費、フェアトレード商品や寄付付きの商品等の消費、エコ商品、リサイクル製品、資源保護等に関する認証がある商品等の消費、地産地消、被災地産品の消費、エシカルファッションの推進、食品ロス削減の取組などがあげられます。
























アドバンス校の取組

城東高等学校	3
城ノ内中等教育学校	4
城西高等学校神山校	5
小松島西高等学校	7
那賀高等学校	8

スタンダード校の取組

城南高等学校	9
城北高等学校	9
徳島北高等学校	10
城西高等学校	10
徳島科学技術高等学校	11
徳島科学技術高等学校定時制課程	11
徳島商業高等学校	12
徳島中央高等学校定時制課程夜間部	12
徳島中央高等学校定時制課程昼間部	13
小松島高等学校	13
小松島西高等学校勝浦校	14
富岡東高等学校	14
富岡東高等学校定時制課程	15
富岡東高等学校羽ノ浦校	15
富岡西高等学校	16
阿南光高等学校	16
海部高等学校	17
鳴門高等学校	17
鳴門高等学校定時制課程	18
鳴門渦潮高等学校	18
板野高等学校	19
名西高等学校	19
名西高等学校定時制課程	20
吉野川高等学校	20
川島高等学校	21
阿波高等学校	21
阿波西高等学校	22
穴吹高等学校	22
脇町高等学校	23
つるぎ高等学校	23
池田高等学校	24
池田高等学校定時制課程	24
池田高等学校辻校	25
池田高等学校三好校	25
徳島市立高等学校	26
とくしま・エシカル高校生委員会	27

実践校	徳島県立城東高等学校										
研究テーマ	エシカル×グリーン ～「エシカル消費は地球に優しい」を探究する～										
1 目指す生徒像											
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「Think Globally, Act Locally.」の精神で世界的な視野に立ってエシカル消費を捉え、身近なところから行動を起こすことのできる生徒 ○ 「つかう責任」の立場からエシカル消費の普及・啓発に積極的に取り組み、消費者市民社会の実現のためのリーダーとなる生徒 											
2 実践の内容											
(1) 高校生が行うエシカル消費に関する活動を証明する認証マークの作成と提案											
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td data-bbox="323 609 507 790">  リユース・リサイクル活動を推進する </td> <td data-bbox="507 609 691 790">  エシカルな行動を学校全体で「見える化」する </td> <td data-bbox="691 609 874 790">  エコな買い物心をかける </td> <td data-bbox="874 609 1058 790">  衣類や持ち物を大切に使う習慣をつける </td> <td data-bbox="1058 609 1241 790">  エシカル消費の背景やストーリーを学ぶ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="323 790 507 981">  持ち物を大切に使い、必要な分だけ購入する </td> <td data-bbox="507 790 691 981">  省エネ・節水の取り組み </td> <td data-bbox="691 790 874 981">  制服や商品のリユース・シェアを進める </td> <td data-bbox="874 790 1058 981">  食品ロス削減に取り組み </td> <td data-bbox="1058 790 1241 981">  地元の食材を使う・育てる </td> </tr> </tbody> </table>		 リユース・リサイクル活動を推進する	 エシカルな行動を学校全体で「見える化」する	 エコな買い物心をかける	 衣類や持ち物を大切に使う習慣をつける	 エシカル消費の背景やストーリーを学ぶ	 持ち物を大切に使い、必要な分だけ購入する	 省エネ・節水の取り組み	 制服や商品のリユース・シェアを進める	 食品ロス削減に取り組み	 地元の食材を使う・育てる
 リユース・リサイクル活動を推進する	 エシカルな行動を学校全体で「見える化」する	 エコな買い物心をかける	 衣類や持ち物を大切に使う習慣をつける	 エシカル消費の背景やストーリーを学ぶ							
 持ち物を大切に使い、必要な分だけ購入する	 省エネ・節水の取り組み	 制服や商品のリユース・シェアを進める	 食品ロス削減に取り組み	 地元の食材を使う・育てる							
<p style="text-align: center;">【作成した認証マーク】</p>											
<ol style="list-style-type: none"> ① 消費者庁「グリーン志向消費行動チェックリスト」に基づき、学校で取り組んでいる10個について生成AIを活用してリストアップ ② エシカル消費自主宣言企業・障がい者就労支援センターハーモニーさんと協働で認証マークを作成 ③ 日経 STEAM2025 に参加し、県内外の高校生へ認証マークを紹介 											
(2) 「糖尿病患者でも安心して食べることのできるポテトチップス」についての探究活動											
<ol style="list-style-type: none"> ① TABBY ICE CREAM (県内でがん患者さんでも安心して食べられるアイスクリームの製造・販売) による講演・インタビュー ② デリカフーズホールディングス株式会社による指導助言 ③ 京都大学ポスターセッションにて成果発表 (3月14日) 											
(3) 学校祭での「忘れ物・落とし物」「回収した制服の展示・譲渡」											
<ol style="list-style-type: none"> ① 回収した制服を整理して在校生・保護者に譲渡会を実施 ② 忘れ物・落とし物を展示し、周知・啓発活動の実施 ③ PTA との連携 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 拾得物のリユース等に関する法的な課題を確認 (弁護士相談) (イ) 忘れ物・落とし物を生徒だけではなく保護者への通知を実施 											
3 実践の成果											
<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本消費者新聞 (令和7年12月1日発行) への掲載 ○ とくしま高校生エシカルサミット2025への参加 ([個人]ナイスアイデア賞) ○ SDGs みらい甲子園2025徳島県大会最終審査会進出 (3月14日) 											



【日経 STEAM2025】

実践校	徳島県立城ノ内中等教育学校		
研究テーマ	広げる、つなげる、「エシカル消費」推進プロジェクト 2025 ～+1 ハピ Get a little bit Better みんなにもうひとつのハピネスを～		
1 目指す生徒像			
<p>○「自分ごと」としてエシカル消費を捉えるとともに、「エシカル消費」を主体的に推進しようとする態度を身に付ける。</p> <p>○体験や学びから得た知識を課題解決へと結び付け、「エシカル消費」の認知度の向上を目指して発信する力を身に付ける。</p>			
2 実践の内容			
(1) 文化祭「エシカル展」開催			
<p>文化祭では家庭クラブと合同で「エシカル展」を開催した。エシカル消費やユネスコ世界寺子屋運動等の紹介を始め、自分たちが行っているエシカル消費行動を書いて葉にする「エシカル宣言の木」ブースを設けた。また、エシカル体験として端布を使ってオリジナルのヘアアクセサリを作るワークショップを開催した。</p>			
(2) エシカル消費の普及・啓発アプリ開発に向けて			
<p>エシカル消費について学ぶことができるアプリの制作に取り組んだ。ゲーム要素を持たせることで、誰もが簡単に楽しくエシカル消費の理解を深められると考え、次年度の運用を考えている。また地元企業の方に講師として来てもらうことで、地域や産学の連携を図ることができた。</p>			
(3) エシカル消費の啓発に向けたイベント			
<p>「もっとエシカル消費を広めたい！」という思いを持ったメンバーが積極的に校外での活動に取り組んだ。「とくしま高校生エシカルサミット 2025」に参加し、フィールドワークやディスカッションを通して県内外の高校生と交流を深めた。校内の「探究フェス」では、フェアトレードの普及や地域活性化に向けての研究発表を行ったり、それぞれの研究分野に関するコンテストに応募したりした。またポッポ街で地域活性化や地産地消イベントを企画・開催するなど、より一層エシカル消費の推進を目指した活動を行った。</p>			
			
【エシカル展】	【啓発アプリ開発】	【探究フェス】	【地域活性化イベント】
3 実践の成果			
<p>「自分たちが今できることは何か？」を考え、小さな取組でも継続することでエシカル消費に興味を持ってもらえる、消費行動の選択につながることを認識する生徒が増えてきた。エシカル消費やSDGsに関するコンテスト、コンクールへの参加、イベントへの参加、企画・運営等、校外に目を向けて取り組む生徒が年々増えていることを実感している。また、企業や大学等と連携することで、さらにエシカル消費の可能性を広げることができると分かった。これからも身近なところからエシカル消費を理解し、実践することで一人一人の「意識改革」を目指す活動を推進する。</p>			

実践校	徳島県立城西高等学校神山校
研究テーマ	できることから取り組もうエシカル消費 ～神山校らしさをいかして～

1 目指す生徒像

神山町を学びのフィールドとし、神山校ならではの取組から「エシカル消費」や「SDGs」を発信する。耕作放棄地（通称まめのくぼ）での活動を通し、学校から地域、地域から社会へと視野を広げることで、環境や地域、社会へ配慮したライフスタイルを選択できる生徒。

2 実践の内容

(1) 「まめのくぼ」プロジェクト

- ①石積みの継続的な実施により、崩れた石垣の修復が進んだ。また、高知県で開催された第3回「石積み甲子園」に出場し、初優勝を果たした。
- ②未耕作地を開拓し、ひまわり畑を作った。地域の方にも好評で「まめのくぼ」を散歩される方が多くなった。また、ひまわりは地域の方に自由に持ち帰っていた。春には菜の花が咲く予定である。
- ③藍染めの染料となるタデアイの栽培を行った。専門家にご指導いただき、ハンカチやTシャツを染めた。また、染めた布を用いてリボンにし、コサージュを製作した。
- ④「まめのくぼ」で収穫した「神山小麦」を使った焼菓子の商品化に取り組んだ。神山小麦の風味をいかしたスティック状の「まめのく棒」と地域食材と合わせたボール型の「まめのくぼーる」の商品化に目処がついた。



【石積み甲子園優勝】



【ひまわり畑】



【まめのく棒取材】

(2) 地域の資源を活用

- ①神山校で栽培した草花を用いて、アロマキャンドルやアロマワックスサシェを製作した。アロマキャンドルは災害用としても役立つため、今後も製作し公共の場に提供していきたい。
- ②神山杉を用いてベンチや杖を製作した。ベンチは許可を得てお遍路さんの休憩所に設置予定である。杖はお遍路さんが使いやすいように藍染めした紐を巻いて握りやすいよう工夫した。杖もベンチ同様に休憩所に置く予定である。神山杉の軽くて丈夫である長所をいかしたものづくりができた。
- ③神山杉や檜の間伐材を用いたアクセサリ製作を行った。ストラップやブローチ、イヤリングなどを製作した。木の温かみを感じるとともに、個々の生徒のアイデアをいかしたオリジナルのアクセサリできた。今後は、小中学生向けのワークショップを開催し、広めていきたい。

(3) 情報発信

①地元新聞に情報提供し新聞に掲載していただいた。本年度だけで10回の掲載があり、多くの県民に活動を発信できた。その他にも、地元情報番組やラジオなどでも発信できた。

②様々な大会やコンテスト等に応募し、発表することで発信できた。

日本学校農業クラブのプロジェクト発表会で最優秀賞を受賞し、本県で開催された四国大会に出場し優秀賞を受賞。

全国ユース環境活動発表大会では書類審査を通過し、香川県で開催された四国地方大会において審査員特別賞を受賞。

中国四国農政局主催「ディスカバー農山漁村の宝」選定委員会にて「コミュニティ・地産地消部門」認定。



【全国ユース環境活動発表大会】



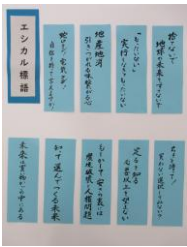

【ディスカバー農山村の宝に認定】




3 実践の成果



「まめのくぼ」をフィールドとした活動は多様になり、地域の資源をいかした取組を行うことができた。除草や石積み、伐木などを継続して行うことよりの景観の保全につながった。「まめのくぼ」に地域の方を招き交流を行うことで、地域の方の想いを聞いたり、昔を思い出して喜んでいただいたり交流の場として活用することができた。生徒たちも「まめのくぼ」の今後や持続可能な農業や暮らしについて考えを深めることができた。また、次年度に向けても様々な意見やアイデアが出てきている。今後も様々な事業等を活用しながら、生徒からの意見やアイデアを具現化するよう努めていきたい。



また、今年度は取組を発表する機会も多く、上記以外にも「SDGsQuest 甲子園」で県大会ファイナリストに選ばれている。その他にも、在来小麦の商品化、今後の販売に向けてさらにクオリティーを上げていきたい。「まめのくぼ」でのサツマイモの植え付けと収穫は、町内の保育園児と行っている。参加した園児が「まめのくぼ」での活動から自然や生物多様性、景観保全に興味を持ってくれる機会となるよう今後も継続して行っていきたい。



実践校	徳島県立那賀高等学校	
研究テーマ	「想い」を未来へ紡ぐ～今、私たちができること～	
1 目指す生徒像		
<p>限られた資源を大切にしようとする意識を涵養するとともに、エシカル消費を通して環境に配慮した生活が「ふつうごと」となるよう、若者文化の中に醸成していくことを目指す。</p>		
2 実践の内容		
<p>(1) 不要となった衣服の第二の活用場を与え、新たな息吹を吹き込む活動「服活」</p>		
<p>①各種イベントで5,300枚の衣服を譲渡することができた。また、毎月29日を「服の日」とし、校内服活を行いサステナブルファッションの啓発を行った。</p>		
<p>②地元高齢者施設・美術館・スポーツジム・フリースクールに服活コーナーを設置し、服の循環を啓発した。</p>		
<p>③廃棄予定の着物を利用した卒業生用コサージュを製作したり、譲渡できない服の生地からリサイクルリースを製作するなどアップサイクルすることができた。</p>		
<p>(2) 縦横のつながり</p>		
<p>①四国大学「藍の家」で譲渡できない服を藍染めし、「インディゴコレクション 2025」でサステナブルファッションの啓発を行った。</p>		
<p>②京都府立洛西高校、京都府立海洋高校と三校合同ワークショップを行い、楽しみながら環境について考える機会を持つことができた。</p>		
<p>③環境ジャーナリストを講師に迎え、脱炭素への取組や衣料システムについて考える機会を持った。</p>		
<p>(3) 伝統の継承</p>		
<p>重要無形民俗文化財である「太布織り」について糸績み体験やカジ蒸しを体験し、地域の伝統文化の伝承に触れる機会となった。</p>		
<p>(4) 普及・広報活動</p>		
<p>①「SDGs 甲子園 2025」で活動発表し、優勝するとともに全国の高校生に活動を知ってもらう機会となった。また他のコンテストでも活動を紹介することができた。</p>		
<p>②学校ホームページやSNS(Instagram・X)で、保護者や地域の方々への啓発活動や成果の発信するとともに、活動記録を「エシカル通信」として発行し、イベントで配布し広報することができた。</p>		
		
【校内服活】	【藍染め体験】	【合同ワークショップ】
3 実践の成果		
<p>専門家による研修や他校種との交流活動を通して、様々な活動を知り、その後の活動に対して柔軟な考え方ができるようになった。そして、本校の活動を利用してくれる地域の方々の意識改革にも携わることができ、社会全体を巻き込んだエシカル活動を行うことにつながった。</p>		




実践校	徳島県立城南高等学校
研究テーマ	阿波、その魅力
<p>1 目指す生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の意志決定で、日々の消費行動が行われていることを自覚する。 ○意志決定するためには知識が必要なことを認識し、知識を増やそうと考える。 ○自分の生活を見直し、倫理的な消費行動を意識し実行できるようにする。 <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) エシカル消費について学び、その知識をもとに1年生全員がエシカル標語を作り、優秀な36点を展示した。</p> <p>(2) 地域に配慮した消費について深く学んだ。阿波和紙を取り上げ、阿波和紙のポチ袋を製作した。ポチ袋は各々が考えた阿波和紙の水引を付けた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【エシカル標語】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【エシカルポスター】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果</p> <p>エシカル消費について真摯に学んだ生徒たちの標語は本当に面白く、考えさせられるものであった。柔軟な考えを持つ彼らの将来の消費行動に、期待が大きく膨らむ。阿波和紙の活動は3年目になる。徳島に心を寄せながら、和紙をととても大切に扱って製作に取り組んだことは、彼らの根っこづくりに必ず役立つと確信している。</p>	




実践校	徳島県立城北高等学校
研究テーマ	和食について
<p>1 目指す生徒像</p> <p>和食づくりの体験を通して、日本の生活文化の価値を認識したうえで、同世代及び次世代に向けて、その価値を広げつなげるとともに、現代日本における食に関するさまざまな問題に気づき、解決に向けて考え行動できる生徒。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 徳島の郷土料理も含め、代表的な和食を数種類作る。</p> <p>(2) 現代日本の食に関する問題に気づき、解決に向けて考え行動する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【寿司飯づくり】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【半田そうめんと天ぷら】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【おせち料理】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果</p> <p>今年度は実習を充実させることで、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「和食」の価値を再認識するとともに、「和食」づくりを通して現代日本の食に関する問題を解決するために考え、話し合い、できることから実践へと結び付けることができた。</p>	



実践校	徳島県立徳島北高等学校
研究テーマ	持続可能な取り組み
<p>1 目指す生徒像 生徒一人一人が社会の一員として、自分と地域のためによりよい行動や選択をすることができるようになる。地域社会の課題を知り、それに対してどう取り組みれば解決するかを考え自主的に行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p>2 主な取組内容 (1) 文化祭で、ペットボトルキャップと使用済みハブラシを回収、フェアトレード「バナナペーパー」展示、エシカルな行動を考える展示、エシカル PR パネル等の展示等を行った。 (2) 地元の子ども食堂にボランティアとして参加し、スタッフと共に子どもたちの食事のお世話や遊び相手になるなど、様々な世代とふれあう体験を通して地域の安心安全なコミュニティづくりの方法などを学ぶことができた。</p> <p>3 実践の成果 学びや体験を重ねる中で、よりよい選択や行動ができるようになってきたと感じる。特に子ども食堂ボランティアには多くの希望者があり、当日は子どもたちやスタッフの方々と交流した生徒は、子ども食堂に対する理解が深まり、自らできることを積極的に行おうとする意識の高まりが見られた。</p>	
	<p>【文化祭展示】</p>  <p>【子ども食堂ボランティア】</p> 

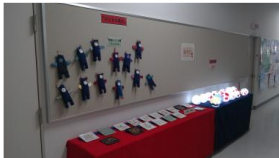


実践校	徳島県立城西高等学校
研究テーマ	持続可能な「Farmer's マーケット」の実践 ～誰一人取り残さず、全員が一步前へ～
<p>1 目指す生徒像 本校の農産物販売所「そよかぜ」を「Farmer's マーケット」として位置付け、エシカル消費やフードロス削減等を地域全域に啓発できる「次代のリーダー」を育成する。</p> <p>2 主な取組内容 (1) 「城西エシカルカステラ」をエシカル消費啓発のシンボルとして開発した。 (2) 障がい者支援施設・支援学校と協働し、地元食材を原料に、商品を開発・販売までつなげ、農福連携を深化させた。 (3) 「フードドライブ」「届けよう、服のチカラ」活動等に取り組み、フードロス削減やリユースにつなげた。</p> <p>3 実践の成果 農産物販売所「そよかぜ」運営やカステラの開発を通じて、エシカル消費活動を啓発することの難しさを感じ、その体験から一步の前進を喜び合える仲間ができた。その仲間たちの環を広げて、生徒会や委員会活動、または部活動などと連携し学校全体としてエシカル消費啓発活動を継続したい。</p>	
	<p>【城西エシカルカステラ】</p>  <p>【文化祭の服のチカラプロジェクト】</p> 






実践校	徳島県立徳島科学技術高等学校
研究テーマ	環境に優しい人になるためにできること ～持続可能な社会の実現を目指して～
<p>1 目指す生徒像 日常生活の中で環境問題を自分事として捉え、身近な行動から環境に配慮した選択を実践できる生徒。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 海の厄介者といわれる未利用魚（アイゴ）を用い、食品ロスについての調理実習の実施</p> <p>(2) 科技高祭にて、プラスチック削減についてのレポート掲示やペットボトルキャップからネームプレートを作成する体験コーナーの設置</p> <p>(3) 洗剤のいらぬアクリルたわしを作成し、校内に配布</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【科技高祭にて展示】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【アクリルたわし作成】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果 実践を通して、環境に配慮した行動はすぐに成果が見えにくいことを生徒が理解するとともに、体験や活動を通して、小さな行動を継続することが持続可能な社会の実現につながることを実感し、環境問題を自分事として捉える意識を高めることができた。</p>	


実践校	徳島県立徳島科学技術高等学校定時制課程
研究テーマ	生命にかかわる地球規模の課題解決と持続可能な社会の実現
<p>1 目指す生徒像 持続可能な社会の実現に向けて、見学・体験した内容から現状の課題について考え、自分にできることを見つけ、実生活で主体的に行動しようとする態度を養う。</p> <p>2 主な取組内容 今年度開催の大阪関西万博では、持続可能な社会実現のために、世界 158 か国と 9 機関の英知が結集し、多種多様なパビリオンで発信した。大阪関西万博を見学し、技術革新が進んだ未来社会の暮らしを体験し、「いのちとは」、「生きるとは」、「幸せとは」について考える機会とした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>3 実践の成果 昨年度学習した、エネルギーと食料の自給率向上の問題解決のための「あわじ環境未来島構想」から発展させ、生命にかかわる地球規模の課題解決と持続可能な社会の実現のために、あらゆる機会を捉えて発信を行うことができ、啓発が図れた。実生活でも主体的に行動しようとする態度が見受けられた。</p>	

実践校	徳島県立徳島商業高等学校	
研究テーマ	米粉の利用や野菜の栽培など、地産地消につながる食生活を通じて社会課題を考え、持続可能な社会に必要な実践力を身に付ける。	
1 目指す生徒像	持続可能な社会に参画することの意義を理解し、主体的に持続可能なライフスタイルを工夫し実践する生徒。	【米粉クッキー作り】
2 主な取組内容	(1) 米粉を利用した地産地消のお菓子作りを通して、食料自給率の向上、フードロス削減、持続可能な農業等について考え、地産地消をはじめとする持続可能な社会のために必要な実践力を身に付ける。	
	(2) 野菜栽培を行い、収穫や調理を通して食への関心や感謝の気持ちを育て、天候と植物との関係を体感することで気候変動等の地球環境を自分事として捉え、持続可能な社会の在り方について深く考える。	
3 実践の成果	自らの生活を見直し、地産地消の意義について考え、CO ₂ 削減やフードロス問題解決等の課題解決に向けての行動を模索する言動がみられるようになった。	 【きゅうりの収穫】

実践校	徳島県立徳島中央高等学校定時制課程夜間部	
研究テーマ	「夜間部エシカルクラブ」から発信する「エシカル消費」を世界に発信し、一人でも多くの人を巻き込んで持続可能な社会作りを目指す。	
1 目指す生徒像	エシカル消費とはどのようなものか知り、それを実践することで、エシカル消費を率先して実践、発信できる生徒。	
2 主な取組内容	(1) エシカルガーデンでキュウリ、トマト、カボチャ、タマネギ、キャベツを栽培し、エシカルクッキングに用いることで「エシカル消費」を実践した。	 
	(2) PTAの方などを巻き込んでエシカルクッキングを行い、「エシカル消費」の大切さを伝えた。	
3 実践の成果	はじめは「エシカル」の意味を知らない生徒が多かった中、学び考える機会を設けたことで、徳島の食材を使った料理や、不要になった物の再利用などがエシカル消費につながることを理解した。エシカルクッキングでは、生徒がメニューを考える際、何を食材に用いればエシカルであるのかを意識して、アイデアを出すことができた。	

実践校	徳島県立徳島中央高等学校定時制課程昼間部
研究テーマ	徳島県の伝統工芸品から学ぶ、地域に配慮した消費
<p>1 目指す生徒像 消費と社会のつながりを理解し、未来をつくる意思をもつ生徒。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) エシカル消費について学び、私たちが地域に配慮した消費を意識して行動することが重要であり、地域の発展につながることを知る。</p> <p>(2) 阿波和紙、阿波しじら織り、大谷焼について学び、知識や興味を持つ。</p> <p>(3) 徳島県の伝統工芸品を使ってさまざまな作品を製作し、より理解を深める。</p> <p>①阿波和紙を用いて、ランプシェードを製作した。</p> <p>②阿波しじら織りの歴史や構造等を理解し、それをもちいた阿波しじら織りくまさんとリース飾りを製作した。</p> <p>③大谷焼の特性等について知り、素焼き皿にオリジナルの図柄を絵付けし、ひとり1枚大谷焼皿を製作した。</p> <p>④1月中旬にエシカル週間を設定し、製作物等を展示した。また、その取組を校内でPowerPointを用いて発表した。</p> <p>3 実践の成果 徳島県の伝統工芸を用いた作品を製作することで、自分の住む地域について興味関心が高まったように思われる。継続した活動をしていきたい。</p>	
	 <p>【エシカル週間展示】</p>  <p>【くまさん製作中】</p>  <p>【輝くランプシェード】</p>

実践校	徳島県立小松島高等学校
研究テーマ	地産地消とリサイクル活動 ～身近なことから取り組むエシカル消費～
<p>1 目指す生徒像 SDGs の知識を日常生活の中に取り入れ、捨てずにリサイクルを考える。また県産、地元産の食材への知識を身に付けるなど、意識の高い活動で周囲への啓発もできるようになる。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 不要になったはぎれ（縮緬）から季節の小物作り（ブローチやストラップ、オーナメント）</p> <p>(2) 郷土菓子（小男鹿）、郷土料理（そば米汁）作り</p> <p>(3) 小松島金長狸まつりへの参加（はぎれを使った缶バッジ作り）</p> <p>3 実践の成果 どの活動にも高い興味・関心を持ち、積極的に取り組む姿が見られた。活動を通して、エシカル消費を身近に感じてもらうこともできた。この活動をきっかけに、自身の消費行動を見直してほしい。</p>	
	 <p>【製作風景】</p>  <p>【ツリー完成】</p>  <p>【小男鹿を蒸す】</p>  <p>【そば米汁】</p>  <p>【小男鹿】</p>

実践校	徳島県立小松島西高等学校勝浦校
研究テーマ	世界の課題・地域の課題を知り、持続可能な社会を築くために、一人一人ができる取り組みを考察し、実践しよう。
1 目指す生徒像	持続可能な社会を築くための消費行動について考え、実践することができる生徒。
2 主な取組内容	<p>(1) 学校の草花で草木染めし、エコバッグを製作。収穫祭で地域住民に配布した。</p> <p>(2) 阿波尾鶏の唐揚げ、鳴門わかめの味噌汁、サラダのメニューでエシカル料理講習会を行った。</p> <p>(3) SDGsを学び、社会課題と解決策を4コマイラストにまとめた。また、季節ごとに食育便りを作成して校内展示し、旬産旬消を啓発した。</p> <p>(4) 小・中学校で使っていた絵の具、クレヨンなどを利用して、魚釣りゲームの魚を色塗りし、高齢者福祉施設の方と交流した。</p>
	 <p>【草木染め作業】 【エコバッグ作り】 【エシカル料理講習会】 【魚釣りゲーム】</p>
3 実践の成果	持続可能な社会を築くためのエシカル消費行動を具体的に学び、実践する態度が養えた。

実践校	徳島県立富岡東高等学校
研究テーマ	阿波晩茶の魅力溢れる商品で、徳島を元気にする！
1 目指す生徒像	阿波晩茶のエシカル消費について考え、地元を盛り上げ、地元と連携し、賑わいを作り出すことができる生徒。自分たちの行動で地元が元気になることを通し、自己肯定感を養う。
2 主な取組内容	阿波晩茶を使ったレシピを考え、地元の業者による商品化を実現した。「晩茶日和のマドレーヌ」という商品名、のぼりやパッケージのデザインも自分たちで考えた。本校の文化祭や地元のマルシェで商品を販売した。また、全国高校生料理コンクールへの阿波晩茶レシピの応募、四国放送ゴジカルへの出演、タウン誌「あわわ」への掲載など活動を広報した。
3 実践の成果	阿波晩茶を使った商品を開発し、地元のマルシェでの販売を通し、地元の方たちと交流を図り、地元を盛り上げることができた。生徒たちは自己肯定感を培うことができた。



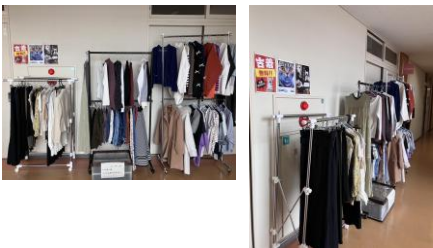
【マルシェで販売】







【実際の商品】



実践校	徳島県立富岡東高等学校定時制課程
研究テーマ	Think Ethically, Act Glocally. エシカルな視点を持ち、グローバルに行動する。
<p>1 目指す生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人や社会・環境に配慮した消費行動である「倫理的消費」（エシカル消費）の視点から日々の生活を見つめることができる生徒（Think Ethically） ○地球規模の視点からも日々の生活を見つめることを同時に行い、日常生活を営むことができる生徒（Act Glocally） <p>2 主な取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒デザインのマスコットキャラクター「エシカルちゃん」をプリントした布製エコバッグや「エシカルちゃん」ぬいぐるみを製作した。 (2) エシカル消費に関する内容を印刷したサトウキビ由来ポリ袋を学校祭等で配布し、来場者に啓発を行った。 (3) 「消費者教育ショート動画コンテスト・エシカル消費部門」に、生徒作品を7点応募。 (4) 東京ビッグサイトで開催された「エコプロ 2025」にて活動を展示、紹介。 (5) 地元阿南市の料理店経営者を講師として招き、地産地消やジビエ料理開発、休耕地の活用、授産施設との連携などについて講話を通して理解を深めた。 <p>3 実践の成果</p> <p>ショート動画コンテスト入賞など、目に見える成果をあげることができ、生徒の自己肯定感向上にもつなげることができた。</p>	





実践校	徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校
研究テーマ	古着から広がるエシカルの環
<p>1 目指す生徒像</p> <p>衣類の再利用など身近な行動を通して、エシカル消費や持続可能な社会について考え、社会とのつながりを意識して行動できる生徒。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>生徒や教職員から不要になった古着を回収し、毛玉取りやアイロンがけを行って整備した。整理した古着は、文化祭の機会を活用して、生徒や来場者を対象に無料で配布し、衣類の再利用やエシカル消費への理解を深めた。</p>	
	
<p>3 実践の成果</p> <p>衣類を再利用することで、廃棄物削減や環境負荷軽減につながることを実感する生徒が見られた。文化祭での配布を通して、多くの人に活動の趣旨が伝わり、エシカルな行動を身近なものとして考えるきっかけとなった。</p>	

実践校	徳島県立富岡西高等学校
研究テーマ	私たちが創る未来～持続可能な社会をめざして～
<p>1 目指す生徒像 身近な課題を自ら見出し、環境や人への配慮を踏まえ、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる生徒。</p> <p>2 主な取組内容 本校では、日常的な設備の見直しを通して、環境負荷と人的負担の軽減を図るエシカルな取組を行った。具体的には、手洗い場のゴミ受けを清掃性に課題のある標準品から清掃が容易なプラスチック素材のものへ変更し、最終的に清掃性と耐久性に優れたステンレス製のものへ変更した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【手洗い場のゴミ受けをプラスチック製からステンレス製に交換している様子】</p> <p>3 実践の成果 設備改善により、清掃効率と設備の耐久性、衛生環境が向上し、資源の有効な活用が図られた。あわせて、生徒が身近な環境設備に関心を持ち、エシカルな視点から持続可能性を考え行動する意識が醸成された。</p>	

実践校	徳島県立阿南光高等学校
研究テーマ	エシカル消費生活
<p>1 目指す生徒像 自分や家族の消費行動を見直し、環境や社会に与える影響を考えた消費行動をとることができる。購入したものや使用しなくなったものを大切に使う意識と創意工夫をして生活をする能力を育てる。</p> <p>2 主な取組内容 被服室に残っている布やテープ紐を活用して、おしゃれなエコバッグを製作し、文化祭で販売した。また、ピンクッションを使った魚釣りを「あらたのマルシェ」のイベントとして実施した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>【魚釣りをしている様子】</p> <p>3 実践の成果 以前から継続しているエコバッグづくりは生徒間に定着しており、先輩から後輩へ作り方を伝えたり、生徒自身が工夫をして改善したりすることができるようになってきている。今後は、エコバッグのように生徒が自ら提案し、工夫・改善していけるような活動をしていきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <p>【布製エコバッグ】</p>	

実践校	徳島県立海部高等学校
研究テーマ	海部高校における資源循環の実践
<p>1 目指す生徒像 自分たちの身の回りにある資源に関心を持ち、よりよい生活になるよう考え、実践できる力を身に付けている。</p> <p>2 主な取組内容 (1) 生ゴミの段ボールコンポスト (2) 藍染め生地で小物作成、文化祭での販売</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【段ボールコンポスト】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【藍染めのポーチ】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果 普段だと捨ててしまう生ゴミや使わずにいた生地を再び使えるモノに変えるという体験を通して、これまで資源の活用にあまり関心がなかった生徒たちが、資源について関心を持つようになった。そして、自分たちの生活にある問題点に気づき、それらに自分たちでできることで工夫し、解決する力を身に付けることができた。</p>	

実践校	徳島県立鳴門高等学校
研究テーマ	エシカルコンシューマーをめざして ～持続可能な未来を～
<p>1 目指す生徒像 グローバルな視点を持ち、社会の一員として行動できる生徒。</p> <p>2 主な取組内容 (1) エシカル展（鳴門高校文化祭において） ① フェアトレードやフードドライブ、エシカルファッションについての展示 ② フードポストの設置（鳴門市とコラボ） ③ 特製！梅サイダー試飲会 (2) エシカル講習会 ① ワークショップ「食品ロスを減らすために」 ② 調理実習「塩麴をつくって、調理しよう」</p> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;">  <p>【エシカル展】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【エシカル講習会】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果 「食を大切にすることが地域を大切にすることにつながる」という学びを深めることができ、持続可能な未来づくりに参加したという経験を自信につなげることができた。今後も、学校と地域が連携して持続可能な未来づくりに寄与する活動を継続していきたい。</p>	

実践校	徳島県立鳴門高等学校定時制課程	
研究テーマ	地産地消などのエシカル消費を意識することで郷土愛を育み、社会的課題について興味関心を持つことで課題を解決するための糸口やそれに対応する技術を習得する。	
1 目指す生徒像	<p>自ら物を製作する活動を通して、物を大切にする気持ちを育て、修理やリメイクにつながる発想を養う。地元食材を使った調理実習を行うことで、地域の特産品の良さを理解し、郷土への関心を高める。</p>	
2 主な取組内容	<p>(1) 技術の習得 裁縫や調理を通して、技術の基礎を学ぶ。</p> <p>(2) 地産地消 県産の特産品を活用した調理実習を行う。</p>	
3 実践の成果	<p>定時制・通信制美術作品展の手芸部門に出品したことで、エシカル消費を意識し、物を大切にする姿勢を育むことができた。修理やリメイクにつながる発想を広げることができた。また「なると金時」を使ったブリュレ作りを通して、地域特産品の魅力を実感することができた。</p>	



【調理実習】



【クッション製作】 【美術作品展 準特選】

実践校	徳島県立鳴門渦潮高等学校	
研究テーマ	地産地消・旬産旬消	
1 目指す生徒像	<p>地域の食文化や伝統を尊重し、エシカル消費を「自分事」として捉え、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる生徒。</p>	
2 主な取組内容	<p>(1) 大学講師による「徳島食育かるた」の授業を行い、地産地消・旬産旬消等の食を通じた社会貢献への責任感を育んだ。その後、各自が県産食材をアピールするポスターを制作・掲示し校内での啓発活動に取り組んだ。</p> <p>(2) 県産の食材を使用しレシピを考案。「けんちん煮」等のエシカル調理実習を行い、保護者参加の料理講習会も併せて実施することで、地域に伝わる食文化への理解を深めた。</p> <p>(3) 藍染めの余り布を活用したティッシュケースを製作。伝統工芸「阿波藍」に触れるとともに、貴重な資源に新しい価値を与えて生まれ変わらせるアップサイクルを実践した。</p>	
3 実践の成果	<p>アンケートにより4項目（地産地消、旬産旬消、食品ロス、栄養摂取）の意識変化を5段階で数値化した結果、授業後は全4項目で平均スコアが大幅に上昇した。特に関心の低かった「旬産旬消」「地産地消」の平均点が1.0ポイント以上向上し、関心が低かった層への動機付けとなった。「食品ロス」も約65%が最高評価の回答で極めて高い。本事業は全体の底上げを図り、実践意欲を高い水準で統一させる効果があった。</p>	



【とくしま食育かるた】



【エシカル料理講習会】

質問項目	授業前平均	授業後平均	n = 59 伸び率
地産地消	3.11	4.21	1.1
旬産旬消	3.06	4.13	1.07
食品ロス	3.81	4.62	0.81
食品群別摂取量	3.4	4.25	0.85

【授業前後アンケート比較】

実践校	徳島県立板野高等学校
研究テーマ	「板野町魅力発見発信プロジェクト」 ～地産地消・地域活性班の挑戦～
1 目指す生徒像	板野高校では、「板野町魅力発見発信プロジェクト」と称して板野町の魅力や課題を発見し、地域の方と共に課題解決していこうと取り組んでいる。本事業を通して、生徒たちが地元板野町を好きになり、自ら食材を手に取り、その食材のレシピ等を考え、販売にも関わっていくことで、農業の六次産業化や地産地消に取り組む。
2 主な取組内容	<p>(1) 板野町特産の春にんじんやれんこんを使ったレシピの考案</p> <p>①徳島文理大学の先生の講義・考案レシピの調理実習 【エシカルマン】</p> <p>②地元の飲食店の協力を得た上で、限定メニューの販売開始</p> <p>(2) 「道の駅いたの」にてエシカルクラブによるエシカル啓発活動</p> <p>①地産地消クイズ 【地産地消クイズ】</p> <p>②エシカル消費を題材とした演劇「エシカルマン」</p>
3 実践の成果	地元特産品のレシピ開発や広報活動、フィールドワークの実施等により、自分たちの住む地域の消費への関心をより高め、自分たちにできることを考え、実践することができた。板野町内の小学校で発表をすることで、板野高校生自身も主体的に地産地消の課題について考え、より地元を好きになるきっかけを持つことができた。



実践校	徳島県立名西高等学校
研究テーマ	地元のエシカル消費活性化のためにできること ～地域や世界の一員としてできることを～
1 目指す生徒像	エシカル消費推進に関する学びを具体的な行動につなげ、他者と協働できる生徒。
2 主な取組内容	<p>(1) 「とくしまエシカル高校生委員会」に5名が参加。「とくしま高校生エシカルサミット2025」、「とくしまエシカルday」の運営等に携わった。同サミットに本校生1名も参加し、県内外の高校生とともに学びを深めた。 【探究成果発表会（2年）】</p> <p>(2) 「総合的な探究の時間（藤波タイム）」のテーマに「エシカル消費推進」を据え、1年生はエシカル消費推進者による講座から「探究のタネ」を見つけ、同じ分野に課題意識を持つ仲間を編み、探究を重ねた。2年生は地元企業へのインタビューやマルシェでの委託販売等の経験を班で企画・実行し探究の成果を発表した。台湾の姉妹校でも成果の一部を報告した。3年生は個々の進路に関するエシカル消費についてまとめ集大成とした。 【エシカル day の様子】</p>
3 実践の成果	エシカル消費推進のリーダーシップを執り、行動・発信できる生徒が育っている。



実践校	徳島県立名西高等学校定時制課程
研究テーマ	地域の産業を理解しよう
<p>1 目指す生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域に根ざした産業を理解するとともに、地産地消の現状を理解する。 ○地産地消の重要性に気づき、エシカルに根付いた生活を心がける。 <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) ハウストマト栽培に関する講演会 地域の大規模農業の実態について講演していただいた。</p> <p>(2) 畜産の講演とソーセージ作りの実習 始めに畜産の実情について講演していただき、その後ソーセージ作りを体験した。</p> <p>3 実践の成果</p> <p>地域の1次産業の実態についての知見を広げ、地域産業発展の可能性を確認できた。ソーセージ作り実習を通して、食材の調理に関する知識や技術の習得だけでなく、エシカル消費に関する意識も向上した。</p>	






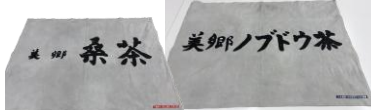

【講演会の様子】









【ソーセージ作り】




実践校	徳島県立吉野川高等学校
研究テーマ	廃棄農産物を利用した商品開発及び環境保全への取組
<p>1 目指す生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安全・安心につながる生産活動を意識して食品製造を行うことで、主体的に加工実習に取り組むことができる生徒を育てる。 ○環境保全活動を通して、エシカルな取組が地球温暖化防止へつながることを広く発信することができる生徒を育てる。 <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 出荷販売できない廃棄ニンジンや規格外イチゴを原料とし、ジャムやパウンドケーキ、ゼリー等に加工することがエシカル消費につながることを学習した。</p> <p>(2) 廃棄される県産ワカメの未利用部位を活用した保水性に優れた有機質肥料を開発し、針葉樹の苗木生産に応用することで海と山からのカーボンオフセットに取り組んだ。</p> <p>3 実践の成果</p> <p>地域イベントでの販売活動や首都圏でのイベントに積極的に参加し、エシカルに関する広報活動をパネル展示やチラシの配布、商品の販売を通してPRを行った。また、苗木生産と植林活動に参加し、エシカルな有機質肥料で地球温暖化防止に向けた環境保全活動を行い、その成果を日本学校農業クラブ四国大会でプロジェクトとして発表した。取組や発表を通して、エシカル消費に関する意識の向上が見られた。</p>	



実践校	徳島県立川島高等学校
研究テーマ	持続可能な生活文化を支えるために、わたしたちにできること
<p>1 目指す生徒像</p> <p>地域の生活文化や特色を理解し、地域の活性化に取り組む人々との交流を通して、持続可能な生活文化を支える姿勢と地域に貢献する意欲と行動力にあふれた生徒。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 桑の葉生産組合と連携し、地元で根付く桑の生産の歴史を学ぶとともに、桑の実や葉の活用方法を探究した。</p> <p>(2) 地域の伝統的な食文化について、吉野川市健康増進課やヘルスマイト、栄養士と連携して学習を進めた。</p> <p style="text-align: center;">【スノーボール販売】 【ヘルスマイトから学ぶ】 【テーブルかけ・のぼり】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">      </div> <p>3 実践の成果</p> <p>桑の葉や実を使った染色に取り組み、その布で製作したのぼりやテーブル掛けを桑の葉生産組合に贈呈した。また、桑の効用や活用を広く知ってもらう機会として、地域の児童館で、ヘルスマイトの助言を得ながら試作を重ねた桑の葉スノーボールを販売した。地域の伝統的な食文化について専門機関と協働しながら学ぶことで、これからの地域の食文化を支えるための知識と姿勢を身に付けることができた。</p>	

実践校	徳島県立阿波高等学校
研究テーマ	ACTION! 今、私たちにできること 持続可能な社会を目指したライフスタイルを考え、実践し、伝え合う
<p>1 目指す生徒像</p> <p>自分の身近でできるエシカル消費を探求し、持続可能な消費や環境保全、防災についての考えを深めるとともに、実践できる人材の育成を目指す。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 1年生が、ゴミ袋などの身近な材料を使って「携帯 my トイレ」を作成し、家庭の防災品として活用し、学校祭の来校者にも配布し、環境に優しい生活と防災についての啓発を行った。</p> <p>(2) エシカル消費、特に地産地消をテーマに、阿波市特産品認証制度の紹介や地元産野菜の展示を行い、その意義や魅力について考える機会とした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">【携帯 my トイレの作成】 【阿波高オリジナル携帯 my トイレ】 【地産地消の展示】</p> <p>3 実践の成果</p> <p>持続可能な消費について、環境保全や防災と関連付けながら、身近なところから考えを深め、実生活で実践していく視点や方法を身に付け始めた。</p>	

実践校	徳島県立阿波西高等学校
研究テーマ	未来のためにエシカル消費
<p>1 目指す生徒像 身近な消費行動と社会・環境とのつながりを理解し、行動に移そうとする生徒。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 地産地消の料理講習会の実施 「地産地消」をテーマとし、阿波市野菜ソムリエから阿波市の特産品「美～なす」づくしの料理レシピを教わった。</p> <p>(2) オリジナルエコバッグ作成 阿波西高校のイメージキャラクターをプリントしたエコバッグを作成した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【地産地消料理講習会】</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  <p>【オリジナルエコバッグ作成】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果 地域で生産された食材を使用することで、環境負荷の軽減や地域経済への貢献について学ぶことができ、日常の食生活を見直すきっかけとなった。また、エコバッグへの愛着が生まれ、日常的に使用しようとする意欲につながった。</p>	

実践校	徳島県立穴吹高等学校
研究テーマ	地域を知り、地域とともに歩む
<p>1 目指す生徒像 ふるさとに誇りや愛着を持ち、地域の方々と協働するなかで主体的に行動し、地域社会に貢献する生徒。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>(1) 湊名地域の傾斜地で茶畑の手入れに参加したり、そばを種から育て、そば打ちをしたりした。</p> <p>(2) 産直市のボランティアに参加し、地域の方々と交流を深めた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【茶摘み】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【そば打ち体験】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【産直市のボランティア】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果 茶摘みやそばの播種・刈取り等地域の産物にふれ、生徒の地産地消と持続可能な循環型社会への関心が高まった。また、産直市のボランティアなどを通して、主体的に行動する力を身に付けた。また、地域の方々とつながりを大切にする気持ちを育んだ。</p>	




実践校	徳島県立脇町高等学校
研究テーマ	学ぼう・やってみようエシカル生活
1 目指す生徒像	「エシカル消費」についての理解を深め、地域の魅力や課題を整理し、地域社会や環境のために自分たちができることを考え行動できる生徒。
2 主な取組内容	<p>(1) 刺し子体験 刺し子の発祥、用途、種類について学び、実際に体験した。</p> <p>(2) 啓発活動 地元で行われる「ミライ文化祭」で生徒の成果物を展示し地域の方に見ていただくことで、生徒の活動内容を知ってもらうと同時に、エシカル消費の啓発活動を行った。</p>
3 実践の成果	<p>伝統文化を実際に体験することで、生徒の興味関心を高めることができた。また、活動を地域の方々に知っていただく機会を作ることは、生徒のやる気を高めるだけでなく、地域とのつながりを深めることができたと感じる。</p>








【刺し子体験】





【ミライ文化祭】

実践校	徳島県立つるぎ高等学校
研究テーマ	地産地消の行動力で地域を守ろう
1 目指す生徒像	地域の特産物の価値や魅力を知り、地産地消を実践できる視点と行動力を身に付け、持続可能なまちづくりに参画する資質を持った生徒。
2 主な取組内容	<p>(1) 地域の特産物である雑穀等を活用するレシピの考案、試作</p> <p>(2) 地元の栄養士による栄養・調理の講義を受講</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【栄養士による講義】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【特産品の活用法を研究】</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>
3 実践の成果	にし阿波地域で生産される「雑穀」が世界農業遺産に登録され、その栄養価値や活用法が注目されていることを知り、自分たちが生活する地域への愛着や誇りが増しているようであった。SDGsの一つである「持続可能なまちづくり」を担う市民として地産地消の意義を認識し、自らの消費行動を見直す機会となっている。

実践校	徳島県立池田高等学校
研究テーマ	「徳島うまれ」「エシカル」つながる環
1 目指す生徒像	エシカルに関する課題を解決しようとする前向きな姿勢を育み、自己と他者・地域とのつながりを感じ、精神的な成長を図るとともに、徳島への郷土愛をより深く育む。
2 主な取組内容	調理実習の廃棄物（玉ねぎの皮）を使って染色をした。媒染は焼き明晩を使い、環境に配慮した。
3 実践の成果	「エシカル」は身近なものであると理解することができた。今回の体験から自分の生活を振り返り、「エシカル」を意識した生活になった。
	 
	【地産地消（郷土料理）】 【玉ねぎの皮で染めました】

実践校	徳島県立池田高等学校定時制課程
研究テーマ	選ぶチカラで未来を変える～エシカル消費のススメ～
1 目指す生徒像	エシカル消費の学習を通して、郷土愛を育み、公共の精神をもって地域社会の一員として行動できる生徒を目指す。
2 主な取組内容	<p>(1) 地域の専門家を招聘し、環境や資源の循環をテーマとした作品づくりに取り組み、完成した作品は学校祭や地域での作品展において展示し、来場者への普及・啓発につなげた。麻紐を用いて制作したアート作品については、展示後に解体し、再活用の視点から ECO たわしとして地域の皆様に配布予定である。</p> <p>(2) 節電・節水啓発用のうちわや廃食用油を活用した非常用ロウソクを製作した。これらの啓発物は年2回実施している地域の警察との合同パトロールの際に配布し、環境配慮と防犯・防災意識の向上を合わせて呼びかけた。</p>
3 実践の成果	<p>制作活動や地域での啓発活動を通して、生徒はエシカル消費を身近な生活と結び付けて考えるようになった。一方、アンケートでは関心が高まったと回答した割合が昨年から2%低下しており、学習を通して、実践の難しさに気づいたことが要因の一つと考えられる。今後は、日常生活で継続できる具体的な行動につなげていきたい。</p>
	  

実践校	徳島県立池田高等学校辻校
研究テーマ	「MOTTAINAI」の視点で考え、行動する辻校エシカル！
<p>1 目指す生徒像 体験や学びから SDGs について考え、その目標の実現に向けてそれぞれが行動につながるることができる。辻校のエシカル活動について保護者や地域の方々に発信・広報する。</p> <p>2 主な取組内容 (1) 三好市のアロマサロンの寺尾和代先生にご指導いただき、地元で生産されたラベンダーを使って、人にも環境にも優しいマルセイル石けんと、サシェを作った。 (2) 三好市消費者協会の方々と一緒に、ジビエや地元野菜を使って調理実習を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【石けん作り】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【サシェ作り】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【学校祭で広報】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【調理実習】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果 生徒たちは、石けんが手作りできること、手作り石けんの香りや泡立ちが既製品と変わらないことに感心していた。サシェに使うラベンダーは細かいごみを手作業で選り分けて作り、物の値段（価値）やフェアトレードについて考えるきっかけとなった。作った石けんやサシェは学校祭で販売し、保護者や地域の方から好評であった。 地域の方々と一緒に地元の食材を使った調理実習は、地域の現状に知るとともに、家庭料理など文化の継承にもつなげることができた。</p>	

実践校	徳島県立池田高等学校三好校
研究テーマ	専門教育から発信するエシカル消費
<p>1 目指す生徒像 本校の専門性を活かしたエシカル消費活動を地域に普及・啓発するとともに、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に行動できる消費者力の育成を図る。</p> <p>2 主な取組内容 森林保全「少花粉スギの栽培と苗木の植栽」 持続可能な森林資源の活用を目指し、花粉の少ないスギ苗木の栽培を行うとともに、学校演習林に植林を実施した。適切な管理が元気な森づくりにつながり、水源かん養や生物多様性などの公益的機能を発揮することについて学ぶことができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>【少花粉スギの育苗】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【スギ苗の植林】</p> </div> </div> <p>3 実践の成果 専門教育を通して、地元地域との交流が促進され、地産地消をはじめとするエシカル消費の実践と啓発につなげることができた。自ら学んだ学習成果の発信は、生徒の自己肯定感を高める機会となった。</p>	

実践校	徳島市立高等学校
研究テーマ	Choose with Care ～わたしたちのエシカルな選択～
<p>1 目指す生徒像</p> <p>地域や社会、世界の課題を自分事として捉え、生産背景や環境・人権に配慮した消費行動を主体的に選択・実践できる生徒の育成を目指す。また、地域資源の価値を理解し、対話を通してその魅力を発信しながら、社会と協働しようとする態度を身に付けた生徒像を目標とする。</p> <p>2 主な取組内容</p> <p>徳島県産食材（ゆこう、阿波晩茶、和三盆、藍等）を活用した商品開発および販売活動を行い、県内外のイベントやマルシェに出店した。クルーズ船寄港時には、県主催事業として来港者へのおもてなしを担当し、県産食品の提供や説明を通して交流を図った。また、フェアトレードコーヒーの販売を通じて国際支援の意義を学ぶとともに、取組内容をまとめてコンテストで発表する機会を得た。万博関連事業の運営補助に参加し、立場の異なる人々と関わりながら活動を支える経験を積んだ。加えて、小学校の放課後クラブや高齢者施設を訪問し、世代を超えた交流活動を実施した。</p> <p>3 実践の成果</p> <p>活動を通して、生徒は商品や消費行動の背景に目を向けるようになり、社会とのつながりを意識した行動が見られるようになった。また、コンテストでの発表や万博関連事業への参加、地域や異なる世代との交流を通じて、主体性や表現力、コミュニケーション力が高まるとともに、共生社会への理解を深めることができた。</p>	
	
<p>【食の宝島マルシェ】</p>	
	
<p>【放課後クラブでの出前授業】</p>	

とくしま・エシカル高校生委員会

「とくしま・エシカル高校生委員会」は、各校の「エシカルクラブ」から意欲ある生徒が集まり、県全域をフィールドに、エシカル消費の推進に向けて活動することを目的として令和3年度に結成されました。

今年度は、5校13名の生徒が委員会を組織し、研修や県内外の高校生との交流を通して、エシカル消費について学びを深めるとともに、県内高等学校、中等教育学校の取組を発信しました。

○「とくしま高校生エシカルサミット2025」

全国から集まった高校生が、徳島県内のフィールドワークや意見交換を通じてエシカル消費の課題解決について考える「とくしま高校生エシカルサミット2025」が8月25日から27日に開催されました。高校生委員会メンバーは、事前研修を経て、高校生スタッフとして運営サポートを全力で行いました。



○委員会活動

10月5日に開催された「とくしまエシカル day」において、エシカル消費推進の活動を行いました。エシカルツリーワークショップとして、葉っぱに見立てた紙にエシカル消費に関する宣言を来場いただいた方に書いてもらい、ツリーに飾りました。

高校生委員会メンバーは、来場いただいた方と一緒にエシカル消費につながる行動を考え、エシカル消費を呼びかけました。

